

会 議 録
-------

会 議 の 名 称	第3回総合型放課後事業委託事業者選定審査会
開 催 日 時	令和4年11月12日(土) 午後1時00分～
開 催 場 所	枚方市役所 4階 第4委員会室
出 席 者	会 長：本多重夫 副会長：大森布実子 委 員：後閑容子、坂口孝司、富岡量秀
欠 席 者	なし
案 件 名	(1) プレゼンテーション
提出された資料等の名 称	資料12 採点表 資料13 共通質問項目 資料14 評価コメント記入用紙 参考資料1 内容審査表採点メモ 参考資料2 勤務体制確認表 参考資料3 プレゼンテーション進行表
決 定 事 項	
会議の公開、非公開の別及び非公開の理由	
会議録の公表、非公表の別及び非公表の理由	
傍 聴 者 の 数	—
所 管 部 署 ( 事 務 局 )	教育委員会 学校教育部 放課後子ども課

## 審 議 内 容

### 【会長】

ただいまから、第3回総合型放課後事業委託事業者選定審査会を開会します。  
まず、委員の出席状況及び本日の進め方等について、事務局から説明をお願いいたします。

### 【事務局】

本日の出席委員は5名で、全員御出席をいただいております、会議として成立することを報告させていただきます。

それでは、資料の確認をさせていただきます。本日お配りしておりますのは、次第のほか、資料12の採点表、資料13の共通質問項目になります。

それから、次に、資料14として評価コメント記入用紙となっています。この資料につきましては、申請団体ごとに評価コメントを御記入いただく用紙となります。今回の公募に際し、5団体の応募がございましたが、1団体が辞退するという旨の連絡がありましたので、4団体についての評価コメント記入用紙を配布させていただいております。

そのほか、参考資料1として、前回の審査会で各事業者からの提案内容概要書の内容を転記した内容審査表採点メモ、参考資料2として、前回の審査会後に各事業者に対して追加で照会しました勤務体制確認表、参考資料3としまして、本日のプレゼンテーション進行表をお配りしております。

また、前回お渡ししました、A4版ファイルに綴じた申請書一式の写し等につきまして、それぞれお手元にございますでしょうか。

なお、本日は、前回11月7日月曜日の審査会で御決定いただきました申請団体のプレゼンテーション、また、採点に関する確認等、必要な審議を行っていただく予定としております。

説明につきましては、以上でございます。

### 【会長】

資料の不足等がございましたら、申し出ただければと思います。また、ただいまの説明について、委員の皆様から御質問、御意見等ございましたら御自由に御発言ください。よろしいでしょうか。

それでは、次に移ります。

案件(1)「プレゼンテーションについて」を議題とします。

プレゼンテーションに入る前に、まず、申請団体の事業計画の提案内容と、確認事項に関して、評価の観点や考え方など、共有すべき認識について御協議いただきたいと思いますと考えております。

事務局から、まず採点方法について説明をお願いいたします。

### 【事務局】

審査におきまして、参考資料1、採点メモや参考資料2、勤務体制確認表等御活用いただ

きまして、資料12の採点表に、A～Eの5段階で採点いただくものでございます。

採点表につきましては、各団体1枚ずつとなっております、申請数が複数にまたがり、申請団体③や申請団体④につきましては、2の総合型放課後事業の運営方針について、オのところの応募エリアにおける取組・独自提案及び応募エリア選択理由につきましては、エリアごとに採点を御記入いただきたいと思います。

委託契約予定事業者の選定における内容審査につきましては、申請団体から提出のあった事業計画書が、本市が求める確認事項を満たしているかを確認いただくとともに、加点事項に該当するかを御判断いただくものでございます。

本日のプレゼンテーションでは、申請団体の提案内容等に関し、まず、会長からお手元の資料13、共通質問項目を行っていただいた後、各委員の皆様から事業計画書から読み取れない部分等について、御質問をいただければと考えています。

次に、資料14、評価コメント記入用紙について御説明いたします。これは申請団体の採点・評価を行っていただくに際し、その申請団体に関して良かった点、悪かった点などを御記入いただくものでございます。

最終的には、委員5名の採点結果と委託料の額による点数を合計した総合評価の点数と合わせて、各委員に御記入いただいた評価コメントを事務局で取りまとめ、審査会としての評価コメントを作成・御確認いただいた後、公表してまいりたいと考えております。なお、事務局で確認しました、採点結果の集計及び取りまとめた評価コメントの内容につきましては、次回の審査会の前に委員に御確認いただきまして、次回の審査会で提示させていただく予定となっております。

説明については、以上でございます。

#### 【会長】

ありがとうございます。

共通質問に関しては、1つずつ聞くことにします。

委員の皆様、御質問等はございましたらどうぞ。

#### 【委員】

採点メモに、提案内容の記載ページと記載内容が書かれています。

この記載ページのところに、プレゼンテーションと書かれているのは、この応募書類の中に、プレゼンテーションで行いますという文言があったのか、プレゼンテーションで聞くよという意味か、どちらになるのでしょうか。

#### 【事務局】

事業者がプレゼンテーションで補足したいとしたものです。

#### 【委員】

分かりました。

**【会長】**

ほかに委員の皆様、御質問、御意見等はございませんか。

**【事務局】**

前回にお配りさせていただいている、参考資料2に、点数の付け方等が載っていましたが、本日、もしお持ちでなければお渡しさせていただこうと思います。

**【会長】**

点数の付け方等について、手持ちがなく、かつ疑問があるという委員がおられましたら、事務局に言っていただければ、いただけるということでございます。

よろしいでしょうか。各項目について、A、B、C、D、E評価ということでしたよね。確認事項だけ一応書いているところは、Cですね。

説明が書いてなければ、D、Eのほうになって。上乘せがあれば、B、Aという、そういうふう理解でよろしいのですね。

**【事務局】**

そうでございます。

**【会長】**

よろしいでしょうか。

次に、プレゼンテーションを実施する前に、申請団体の事業計画内容や採点に関し、委員の方で共有しておくべき事項等があればお願いしたいと思います。

特に、プレゼンテーションが始まる前に、委員の皆様から、共通の認識という観点から御意見等ございますか。先ほどの副会長の御質問にもございましたが、申請書に書いておらず、プレゼンテーションでやるということ、どう評価するかのあたりも問題だと思いますし。

申請書の書き方について、手慣れた事業者さんと、あまり慣れてない事業者さんの間では落差がある。それをどう見るかですよね。一概に手慣れた、そつがないほうがよくて、手作りふうのほうが悪いというふうに評価をするのか。あるいはもうちょっとそういう一面的な判断ではなくて、実質的なことまで考慮するのかのいうあたりも、私は気になったところなのですけれども。

委員は、その点はいかがですか。

**【委員】**

やはり手慣れてない方は、肝心なところが抜けているというのは感じるころはあるのですが、それでも一生懸命やろうという気持ちは伝わってきますね。

意気込みとか、そんなところが見られればいいかなと思います。手慣れているところはよく書かれています、しかしそうでない方でも、どんなふうにしたいのかということが感じられればいいと思います。

**【会長】**

委員は、どうですか。

**【委員】**

委員がおっしゃったようなところかなと思います。あと、共有というか参考までに、辞退された事業者の辞退される理由とかは聞いていますか。

**【事務局】**

特別に理由は聞いておりませんが、事業計画の提出後に、会社でもう一度検討をした中で辞退することが決まったとお聞きしています。

**【委員】**

分かりました。

**【会長】**

委員の皆様、よろしいですか。

**【事務局】**

前回、委員から、市の考え方を示してもらいたいというお話がございました。

保育や見守りに関する考え方の共通としまして、「児童の放課後を豊かにする基本計画」の基本理念を参考資料として置かせていただいております。発達段階に応じた主体的な遊びとか、例えば、児童が自発的に自主性を発揮することができるような働きかけというのはどうということかというようなところを書いておりますので、イベントやプログラムだけに頼らず児童の意思を尊重する取組の提案がなされているかというところとか、市から委託されている事業ということで、それぞれ特色あっても統一された基本のもと実施することを理解しているかとか。他の事業者と整合性を図るために、運営内容の改善を市から求められた場合には応じることができるかというのを、ご確認いただきたいです。

また、配慮の必要な児童に対してどのような対応策を行うかということを確認していただきたいと思います。

**【会長】**

ありがとうございます。

よろしいでしょうか。それでは、準備がよければ、プレゼンテーションを実施したいと思います。

事務局で申請団体の誘導をお願いいたします。

<申請団体①（申請団体①）入場・準備>

### 【事務局】

それでは、ただいまから、プレゼンテーションを行っていただきます。

プレゼンテーションは、初めに団体名及びプレゼンテーションされる方のお名前を述べてから始めてください。なお、プレゼンテーションの時間は20分となっております。終了1分前になりましたらベルでお知らせし、所定の20分になり次第、終了とさせていただきますので、御了承ください。

なお、プレゼンテーションが終了しましたら、引き続き、委員の皆さんからの質問にお答えいただきます。

準備はよろしいでしょうか。

それでは、始めてください。

### 【申請団体①】 提案内容概要書等に基づいてプレゼンテーション実施

### 【会長】

どうもお疲れさまでございました。

最初に、私から3点、1問ずつお聞きします。3点御質問させていただき、これはほかの申請事業者さんに対しても共通の質問ということになります。1問ずつ簡単に簡明にお答えいただいた上で、ほかの委員の皆様から、その答えやそれ以外の観点からの御質問等させていただきますのでよろしくお願いたします。

では、私から最初の質問でございます。

配置職員の体制及び資格など、従事者配置についてどのように考えているのか少し包括的な質問でございます。1点目、今の質問に対してはどんなものでしょうか。

### 【申請団体①】

ありがとうございます。途中プレゼンテーションで御説明させていただきました、提案書68ページからお伝えさせていただいております。

まず、先ほど提案でもお話したように、今現在、既に枚方市の実務のほうで経験させていただいているものを、それぞれの責任者として配置をさせていただきますので、有資格者、指導の経験のみならず、枚方市様の放課後事業を既に経験しているものを、それぞれに配置をさせていただく計画になっております。ただ、その者だけが経験しているような状態では、なかなか子どもたちの対応は難しいですので、非常勤のスタッフも含めて、異動のほうを検討いたしますし、非常勤、常勤の者を含めて経験あるもの、資格のあるものの配置を適切に行っていくということと。

もう一つ、夏休みとかは、午前中からの子どもたちを預かることになるということで、年間を受け入れる時間のほうが変わってくるというのが、この放課後事業の特色でございます。それとプラスアルファして、昨今やはりコロナウイルスの関係で急な発熱があった場合、ど

うしても欠勤が出てくる可能性が高いものを、3年近い期間を過ごしております。ですので、ぎりぎりの雇用人数であれば、子どもたちを安全に受け入れる体制を整えることができませんので、週に3日、4日程度のシフト制で非常勤職員を複数名雇用することになって、急な欠勤が出た場合に急遽出勤を募ったり、イベントの場合は逆に配置よりも多く職員を配置して安全管理を行ったりということで、非常に有効的にシフトのほうを組めるパターンを考えておりますので、常勤、有資格者を雇用すると同時に、少し頭数を多くシフト制で緊急時にカバーできるような体制を組む、こういうことを考えております。

#### 【会長】

ありがとうございます。

2つ目の質問でございます。事故や自然災害、不審者侵入時に対する安全管理体制について、先ほど御説明いただいたのですが、今一度どのように考えられているか教えていただけますか。

#### 【申請団体①】

まず、1番の考え方は、子どもたちの命が一番と考えておまして、例えば、何か事故があったときに、連携するののかどこかに連絡するののかというよりも、まず、子どもたちの命が一番大事ですので、例えば、首から上の何かけがが起こるようなことがあったら、すぐに救急車を呼びなさいということ、会社のほうで研修指導しています。一步の迷いが、子どもたちの体に障害が残ってしまったりとか、命につながってしまったりとかということにつながりますので、我々は研修とか、日々マニュアルを覚えたりとか、職員会議で何かあったときに伝えるということをやっておりますけれども、職員にはまずは子どもたちの命を守る行動を取るということ伝えていきます。

それと、もう一つは、自然災害等は、職員たちだけでどうにかなるようなものではございません。やはり子どもたちの防災意識であったりとか、どこに避難したらいいのかということ、職員だけではなくて子どもたちにも覚えておいてもらうということが、何か大きな災害があったときに迅速に行動が取れることになるかなと思いますので、児童会であったりとか、今回のオープンスクエアで、月1度避難訓練を実施して、子どもたちの防災意識を上げていくということで、職員だけではなく、利用者の皆様も含んで、そういった意識向上を図っていくということと、何よりも子どもたちの命が大事であるというところを、重視して対応いたします。

#### 【会長】

ありがとうございます。

あと、不審者対応についてもお聞かせいただけますか。

#### 【申請団体①】

不審者のほうも、同様でございます。過去に何例かございます。

実際、我々の既存施設の中で、これは不審者じゃないのかなというのが周辺の情報で得ら

れたりとか、外遊びのときにフェンスを挟んだ向かいから、ちょっと物を投げられてしまったりとかという事例は、144施設の中でございます。その場合も同じで、避難訓練を災害だけではなく、不審者も同様なケースとして扱っておりますので、すぐ校舎の中に避難をして、学校さんと相談をして、警察のほうを呼ばせていただいて対応して、その日は保護者様全員にお迎えの対応をお願いして、児童が安全に自宅に帰れるように対応いたしますので、子どもたちの命を守ると同時に、子どもたちと一緒に安全意識を高めるというところは同様なのかと考えております。

#### 【会長】

ありがとうございます。

3つ目の質問でございます。先ほどのプレゼンテーションでの御説明とも重複するかもしれませんが、今一度お答えいただけますか。児童の発達課題に応じた主体性の育成についてどのように考えているのでしょうか。

#### 【申請団体①】

先ほどもお伝えしたとおり、研修コーディネーターが在籍しております。先ほど写真で紹介した研修コーディネーター、大阪市の公立小学校の先生向けに研修をやられていた方を当社で雇用させていただいておりますので、児童に対する知識やスキルの研修をさせていただきます。

ただ、我々これまで実感しているのは、マニュアル、研修ですべて解決できるものであるとは考えておりません。ですので、この研修コーディネーターの研修だけではなくて、実際施設のからちょっと様子が気になるお子さんがいるのですという、こういう相談を受けた場合、実施施設の巡回をさせていただいております。子どもたち様子を見させていただいて、少しこういうふう環境を整えてあげたほうがいいのではないのかとかというアドバイスをいただいて、個々の様子に応じた対応させていただいております。

ですので、広く全員の職員が知識を持っておるということも重要なのですけれども、子どもたちそれぞれの特性に合わせて環境を整えたり、保護者様と連携させていただく、学校様と連携させていただくということが重要になるのかなと考えておりますので、個々の様子に応じた対応を進めさせていただきます。

#### 【会長】

ありがとうございます。

それでは、委員の皆様方から、御自由に御質問等していただけますか。

#### 【委員】

非常にたくさんの学校をみていらっしゃるので、素晴らしいと思いますが。子どもたちに今言われているヤングケアラーという、そういった子どもたちもやっぱり来られると思うのですが、そういった場合、どのように対応されているか、もしありましたら教えてください。



**【申請団体①】**

そうですね、気になる方に関しましては、まず、学校様におられるカウンセラーとの共有をさせていただいております。児童会だけではなく、学校の授業の中やふだんの様子というのは、そのカウンセラーの方とかがよく御存じなのでそこと擦り合わせをさせていただいた上で、僕らだけで判断するのではなく、学校様と共有させていただくというのを重視させていただいております。

**【委員】**

ありがとうございます。

**【委員】**

69ページにあるのですけれども、こちらのほうに1つのところに、統括責任者、サブリーダー、それからパート職員とありますが、このパート職員という方は、先ほど紹介のあったアルバイトの方というふうに考えてよろしいですか。

そうすると、そのアルバイトの方たちもシフト制にして、来ていただいているというそういうことになるわけですね。

**【申請団体①】**

全てが学生のアルバイトではないですけれども。主婦層の方などでも、御勤務をいただきます。学生のアルバイトと一緒にさせていただいています。

**【委員】**

1年半の運営経験上、欠員になるということはありませんか。

**【申請団体①】**

そうですね。先ほども御説明したとおりなのですけれども。やはり今のこのコロナという事情である中で、やはり急遽の発熱というのは実際ございます。ただ、先ほどもお話したように対応をしていますので、急遽の場合もある程度補助であったりさせていただいております。学生だけではなく、先ほどもお話が出た内容ですけれども、幼稚園を経験された方という方も弊社のほうで働いていただいたりして、また、病院で午前中勤務させていただいて、逆に午後、児童会のほうに入ってくださいという方もおられますので、そういった意味では幅広く御活躍いただいている職場でございます。

**【委員】**

もう1つよろしいですか。そのようなアルバイトの方たちへの研修体制というのは、どのようにされていますか。

**【申請団体①】**

研修に関しましては、少しお伝えしたのですけれどもいくつか種類がございまして、社内

で行うもの、これは基本的には正社員や、常勤のものが多くされているものです。

81ページ、我々はWebツールをかなり活用しておりまして、研修ビデオを録画したものを社内のポータルサイトで見られるようにしており、動画配信でいつでもアカウントを持っているものがみられるような、そういった1つの場所に集まらなくても、研修が受けられるという体制は整えております。

そういったものを活用することで、シフトで勤務される職員の方に関しましても、シフトにも、実際の子どもの対応の業務に入る30分、そこが研修のビデオを見てもらうとかWebで研修を受けてもらって、Web上で質問したりとかもできるというような体制を整えておりまして、きちんと必要なスキルや知識というものが身に付けられる体制をとっております。

### 【申請団体①】

今2校でやっている具体的な話を、少しさせてもらいます。

実際、僕のほうで先ほど御説明させていただいた医療スタッフについて。

資料、32ページに写真を少し御紹介させていただきます。

医療スタッフでの研修になりますが、こちらのほうに関しましては、実際起こりうることを、実際に研修するふうにやらせていただいています。このときに、僕のほうは主体で話させていただいたのですけれども。まず、医療研修に関しましては、新しい情報というのは常に更新していかないと、そのときに現場で活用することはできませんので、最初けがをしたときに、今であれば消毒液じゃなくて水で洗うということが基本になっていきますけれども、やはり知識は入っていても、本当にそうなのかというのが分からないときに困りますので、そのときに医療スタッフに入らせていただいております。

また、枚方市様にそのときは放課後子ども課の方にちょっと来ていただきまして、実際に研修を見ていただいて、一緒に御参加していただきまして、そういうときには、研修の共有もさせていただいております。

また、職員については、正社員だけではありません。非常勤、アルバイトの方々にも、午前中に来ていただいて、交えて研修参加いただいております。ここは事業として必要になりますので、当然お給料を支払って、午前中来ていただいて、スキルアップに勤めていただいているという状況でございます。

### 【委員】

ありがとうございました。いろいろ精力的な取組をされているということがよく分かりました。そこを踏まえて、教えていただきたいところがあります。

全ての学校の学習指導要領が変わっていったって、いわゆる学校の学びを変えるという基本的な方針になっています。そういう意味で、枚方市が大切にしている主体性というのは、とても大切なキーワードかなというように思います。具体的な活動でも、それをどうやって支えていくのかということがあります。そうなりますと、例えば、一人一人いろんな活動をするということを支えていくということになります。あるいは、プログラムに合わない、プログラム以外のことをやってもいいということにもなります。そういう多様性が出てきたときに、例えば、こっちでもやりたい、こっちもやりたい、こっちもやりたいというように広

がったりもします。例えば、同じ10人でも、10カ所になる場合もあれば、3カ所になる場合もある。それに対して、どう応えていかれるのか。そうなってくると、人の対応がそのときそのときで変わってきますよね。

先ほど配置のところ、余力のあるというお話も聞いておりましたが、あるいはオープンスクエアなどもそうですけれども、その日によって子どもたちの数が変わります、それは予想がつかないこともありますし、来られた子どもたちもこちらの想定とは違うところで遊びたい、これを支えていかれるときに、例えば、どのような体制を考えられているのかということ。

今回、南部での取組を御提案いただいておりますが、他の事業者さんと、連携していただくということも出てくるかなと思いますし、それは人の連携もありますけれども、要は事業内容として、あるいはプログラム内容、例えば御社の内容ではない内容、例えば一緒にやってくださいというようなことが起こってきた場合、その辺はどのような対応とか、その辺はどのような想定をされておられるのかなというのを教えてください。

#### 【申請団体①】

まず、学習指導要領が変わることを、意識して対応させていただいております。提案書の15ページに、我々の先ほども説明しました運営理念を書いています。新しい学習指導要領と同様に、我々は生きる力というのをキーワードに、子どもたちの支援をしていきたいなということを考えております。これがいわゆるこの中の1つが、主体性であるのかなと考えていますし、子どもたちのやりたいという気持ちを尊重してあげる、できるだけそれができるような環境を整えてあげるというのがこの放課後事業における、我々の使命の1つであるのかなということを考えています。

その中において、今しがたおっしゃったように、子どもたちの活動が多様になっていく中で、活動場所が分かれたり、複数のことを並行してやっていくということは考えられます。ただ、一方で、現実職員の体制は限られていると、これは難しい状態かなと思います。その中で我々は運営していく中で、月1度お便りを出しています。子どもたちがあれをやりたい、例えば、我々の理念や枚方市様のやりたい事、子どもたちにこうなってほしいという思いを考えたときに、子どもたちにこういうことをやってほしいということをイベント中に落とし込んでいく、お便りを作っていきます。この日は、例えばスポーツの日、この日はこういった活動をする日だよということを、保護者様にお知らせして御参加いただくこととなります。そうすると、人気がある日、活動が一日の中でいろいろ大きな行事が入るということはお便りを出していきますので、突発的なものがくればあれかもしれませんけれども、大きなものは少ないのかなと。ただ、一方で、今のお話だと人気のある内容は、たくさんのお子さんがいらっしゃる日が出てくるというところになります。

ただ、今回、6施設ということで、複数運営をさせていただく形になります。全ての施設が同日に人気のあるプログラムをやるのではなくて、少し日程をばらさせていただいて、ほかの施設から、大変利用が多いときに関しては応援に行くようにしたりとか、事務局の職員も、もともと子どもの指導をしておりましたので、応援に入ったりということで、人員のほうは流動的に対応できると考えております。

あと、もう一つ、ほかの事業者様との共催行事、これは我々、もし御縁があれば積極的に  
行わせていただきたいなと思います。いわゆる、逆にいうと子どもたちは、ほかの学校の子  
どもたちと交流ができるというふうに捉えますので、ぜひほかの学校のお子様たちと交流で  
きる、お友達関係を作れる機会があるのであれば、事業者としては積極的に取り組みをさせ  
ていただきたいなと思っております。我々がやっている自治体様のほうでは、年に1回、学  
童で取り組んだ発表する場、それも区内、市内で全ての学童が集まって発表する場も作って  
いただいています。練習したものを発表する機会、ほかの事業者様と一緒に行事を作ってい  
くことは既に行っておりますので、同じような考え方で取り組みたいと考えております。

#### 【申請団体①】

補足しますと、先ほど最後のところは、大阪市で今は4つの区で事業をしておりまして、  
コロナ前は、その区単位で、区の小学校が全部集めて、1つの体育館でイベントを行って他  
校との交流や発表会や遊びをみんなでやっていた、こんなことも企画してやっていたという  
事例もあります。

それと、子どもの主体性を伸ばすということは、とっても大切なことだと思うんですけれ  
ども、子どもと主体性という捉え方というところもしっかりと指導員と共有していかないと、  
これは履き違えると、とんでもないことになると思いますので。そのあたりを、子どもたち  
のアンケートを取っているというのも、この思いからではあります。しかしながら、好きな  
事、自由な事をさせるということは、必ずしも主体性につながるとはとても思いませんので、  
ここをしっかりと広くみんなで考えて取り組んでまいりたいとそういうふうに考えます。

#### 【委員】

ありがとうございました。今、いろいろお話をいただいて、他事業者さんとの連携、現実  
問題、なかなか難しい部分があるかなと思います。要は人だけが移動すればいいだけではな  
くて、そのときの人件費の問題とか、いろんなことも起こってまいりますので、現実問題は  
調整が大変な部分があるかなと思います。また、その辺をうまくできるような仕組みを何と  
か作っていただけたらなというふうに思いますし。また、主体性のところの部分も、おっし  
ゃるように確かに難しいところもあると、ただ、イベントでいろんな行事をやるのは従来型  
のものでありますので、そうではなくて、日々の中で学校では求められてくる場所であり  
ますので。自由にやらせるということではなくてということは、当然でありますね。ただ、  
それと従来型のイベントをいろいろ展開するという事は、全く別問題になりますので、そ  
の辺のバランスとかを御検討いただいて、とても楽しい事業提案をしていただけたらなと思  
います。

#### 【委員】

いろいろとお聞かせいただきましてありがとうございます。私のほうからは、予算書につ  
いて、お尋ねしたいと思います。

御社の事業計画書を見させていただきますと、かなり詳しく費用について書かれているの  
ですが、予算書については、かなりざっくりした数字になっておりまして、特に人件費部分

が、かなり大きいと思います。特に、オープンスクエアでしたら、人件費以外のほかの経費がどうなっているのかなという部分が分かりづらいという部分があるのですけれども。この内訳については、人件費と消耗品費というようなざっくりした内訳でもここで説明してもらえますか。

**【申請団体①】**

様式3の3収支のところ、オープンスクエアのところでしょうか。

**【委員】**

オープンスクエアも児童会室についても、ざっくりとした内容になっていると思います。例えば、他の事業者さんですと、様式は違っているものの内容が結構細かく書いてあるのですけれども。御社の場合は、かなり人件費のほうに重きを置かれているので、先ほどのお話から、多めにきつと取っていて、緊急時に対応できるようにしているというお話だったので、ここは整合性があるのかなと思っていますが、特に、オープンスクエアでしたら、人件費と消耗品費しか上がっていませんので、その割合もかなり人件費のほうの比率が高かったなので、その経費についてどのようにお考えになっているのかなというところをお尋ねしたかったのです。

**【申請団体①】**

今現在これは予算ということで御提出させていただいています。実際、保育にかかる費用も、我々にお仕事を任せていただけるようでしたら、また計画をしていって、コストを抑えるために我々は事業を行っているわけではございませんので、必要な経費はかけて対応していくような形になるかなと思います。

ただ、一方で、我々重視している点、人の面でございます。保育に関わる人の質が保育の質に直結していくのかなと思いますし。特に、安心・安全を守っていく上で、人員配置は欠かせない部分であるということを考えています。大人の目が少なくなればなるほど、安全は脅かされるものだと思っておりますので、そうした意味では、予算書に表れているとおり、重視しているのは人員面にあがってまいります。なので、消耗品、ここを抑えていこうという考えではございません。必要な経費であれば、これ以上かかることもあるという前提のもとで、人を重視した予算書のほうを、提案させていただいているというような形でございます。

**【委員】**

例えば、現在でしたら、今運営されているところはどうなっているのか分からないのですけれども、児童が退室する際に保護者さんと連絡を取る、システムで入退室管理をする仕組みとか、そういう通信費的なものについては、もう全部手動という感じですか。

**【申請団体①】**

今後、入退室システムを導入されるというのはお伺いしております。

他の自治体では、我々が主体で提案をして、そういうシステムはかなり普及をしているとか随分前からそういう対応はさせてもらっておりますので。後は、市と連携をさせていただいて、予算のほうは全部変えますので、こちらはそういう準備はいくらでもできるかなと思っています。

**【委員】**

この3の中で、対応していけるということになるのですか。

**【申請団体①】**

言っているシステムではなく、例えば、我々が使っているシステムであれば、この予算内で全く問題なく可能かなと思っています。

**【委員】**

分かりました。もう1点、決算書についてお尋ねしたい点がありまして、かなり売上げ自体も大きな会社であると思うのですけれども、長期債務がかなり大きい金額で上がっていると思うのですが、これはどういったことで借入れが多くなっているのですか。

**【申請団体①】**

決算書を御覧いただいているのではないかなと思います。

計画書のほうにホールディングスのほうの決算書を一緒に添付させてもらっています。

ホールディングスのほうが、全ての資金の調達や実際に資金の現預金の保有というのをホールディングスが行っておりまして、そこから運営費という形で長期貸付をしているというのが、こういう構造になっていますので。我々としては連結で行っていますので、連結で両方を見ていただくと御理解いただけるとと思います。

**【委員】**

今、決算書を見させていただいておりますが、例えば、新しく保育事業をされているとか、そういったことと関連があるのでしょうか。

**【申請団体①】**

当然ながら、保育事業を行う上で施設整備に関わる費用に関しましては、我々が自己資金で行う割合と銀行からの借入れで行う割合というのもございます。

**【委員】**

直接関連はないということですね。

**【申請団体①】**

関連はないことはないですけれども。自己資本比率が今はどういう状況になっているかと言いますと、約50%弱ぐらい、47、8%ぐらいが自己資本比率、これは連結ですね。そ

ういう運営をしております。常に、大体50%前後ぐらいを維持しているというところがございますので、財務内容としては当社といたしましては、さらによりよいものにしていく必要があると思っておりますけれども、特に問題はないというふうな認識でやっておりますので、ちょっとホールディングスと分けて見ていただくと。見づらいところでもあるのですが。

**【委員】**

会社さんで希望されているというところで、御社の予算書で質問させていただきました。

もう1点、現在、山田小、さだ小で選考実施されていると思いますが、運営されている中で、枚方市さん自身の問題点とか何か感じられるところがありますか。

**【申請団体①】**

枚方市の施設独自のそのような考え方でしょうか。

**【委員】**

ほかの自治体さんと異なるなということをお願いします。

**【申請団体①】**

今現在運営のキッズクラブで言いますと、子ども教室の部分が土曜日と長期休業期のみという、いわゆるオープンスクエアの部分が、土曜日と夏休み、冬休み、春休みしか運営していないのですね。前年度と今年度はですね。次の御契約のときから、平日の学校の授業があるときも子ども教室の運営をしていくという、こういうふうになりますので。現状の課題という、この運営は全国でも珍しいパターンです。土曜日と長期休暇だけ、子ども教室を運営するという。いわゆる事業者側からすると、ここだけ人員体制が必要になるということになるので、どうしても夏場の短期の雇用をしたりなどをしていかざるを得ないというこういう状況になっていますので。その都度、長期休暇のたびに人員の確保が必要になってくる。また、ただ確保するだけではいけません、やっぱり研修して教育した人間に、子どもたちの対応をしていただかないといけません。ただ、夏休みが終わったらリセットされてしまうので、また、次の冬、春に、もう一度人員を整えないといけないということで、人員の確保に苦勞するのですけれども、質のほうにすごく課題が出てしまうということで、ここに非常に課題はあったのかなと。恐らく直営のモデルでやられているほうも、人員確保はかなり苦勞されたのではないのかなと考えています。

ただ、一方で、それに関しては、次から長期的な視野で人材確保して教育をして、質の向上に努めているほか、子どもたちの活動内容をもう少し発展的なものにしていけるということができるようになるのかなと考えておまして、そこに関してはよくなっていく、次年度から我々がお力になれる範囲も広がってくるのかなと思います。

それと、子どもたちの面で言いますと、これは枚方市様においてだけではないのかなとか、やはりコロナ禍になってからでしょうか、虐待の疑いのようなものに触れることというのは、随分多くなってきました。なので、我々からすれば、職員の意識、人権に対する意識を高めしていく、来年度から「こども基本法」も施行されますので、より子どもたちの人権に応じた、

質の高い保育というのをやっていく必要があるのと同時に、初めての委託ということで、この2年間やらせていただいております。ただ、子どもたちにとって、そんなことはそんなことは関係ありませんので、何かあったときに大人がちゃんと連携を取って対応できる仕組みを作っていくということは、子どもたちの命を守っていくことになりますので、虐待は我々だけで解決するものじゃなくみんなで連携して、解決していくところになるのかなと考えておりますので、この社会の変化に応じて、我々のほうは対応していくという責務がありますが、直近の課題としては、全国的にやはりそういうケースも相談が増えているのかなというのは痛感しております。

**【委員】**

ありがとうございました。  
以上です。

**【会長】**

よろしいでしょうか。長い時間にわたりありがとうございました。以上でございます。お疲れさまでした。

**【申請団体①】**

市のほうで、プレゼン直前に配付した資料は回収するように言われておりますので、回収させていただきます。 どうもありがとうございました。

<申請団体退室>

**【会長】**

それでは、ここで事務局のほうに御質問、あるいは確認点がございましたら、御自由に御発言していただきます。

**【委員】**

1点、時間配分ですけれども、質問の時間は確か20分だったと思うのですが、質疑応答の時間合わせて35分ほど経っています。他の事業者さんも同様にしないといけないのではないですか。

**【事務局】**

分かりました。プレゼンは時間どおりですが、質問が20分で終わらなくて、35分かかりました。他の事業者に不利益が出てしまうので。質疑応答はマックス35分ということで、そこまで質問がなければ終了するということがいかがでしょうか。

**【会長】**

分かりました。そうでしたら、それでやらせていただきましょうか。



そうしたら、時間が押していますので、次の事業者さんをご案内いただけますか。

### <申請団体② 入場・準備>

#### 【事務局】

それでは、ただいまから、プレゼンテーションを行います。

プレゼンテーションは、初めに団体名及びプレゼンテーションされる方のお名前を述べてから始めてください。なお、プレゼンテーションの時間は20分となります。終了1分前になりましたらベルでお知らせし、所定の20分になり次第、終了とさせていただきますので、御了承ください。

なお、プレゼンテーションが終了しましたら、引き続き、委員の皆さんからの質問にお答えいただきます。

準備はよろしいでしょうか。

#### 【申請団体2】提案内容概要書等に基づいてプレゼンテーション実施

#### 【会長】

はい、お疲れさまでございました。

最初に、私から3点質問させていただきます。ほかの申請事業者さんに対してもしている質問でございます。1個ずつ質問してまいりますので、1つ目は、配置職員の体制及び資格等、従事者配置についてどのように考えておられますかという質問です。簡潔にお答えいただければと思います、お願いいたします。

#### 【申請団体②】

配置職員については、まず1班当たり、必ずフルタイムの職員を1名配置して、その職員については、保育士資格者または教職免許を持っている人を優先して配置する予定です。そのほかの職員、スタッフについては、オープンスクエアの職員も含めて、方針として、職員全員に研修は受けてもらうということで、放課後児童支援員の資格保持者、ちょっとすぐには無理だと思うのですが、人数上随時受けてもらっていておりますので、その方針にします。

夏休み等々、どうしても、夏休みだけアルバイトで頼む職員とかも出てくると思うのですが、それについても、支援員の研修を受けられるかどうかは分からないのですが、受けられない場合は社内で保育士がいるので、色々な研修をさせていただこうと考えています。

#### 【会長】

ありがとうございます。2つ目の質問です。事故や自然災害、不審者侵入時に対する安全管理体制についてどのように考えておられますか。事故、自然災害、不審者侵入時についての安全管理体制について、どのような方針、どのようなお考えかという御質問でございます。

**【申請団体②】**

先ほど、お伝えさせていただいた内容の繰り返しになるかと思いますが。

事故、またそういう防災関係に関しましては、小規模保育をさせていただく手順で積み上げてまいりましたので、マニュアル等をしっかり作成しております。その中で、また枚方市の御教授をいただきまして、ここを変えていったほうがいいよという御指示の下、マニュアル等をしっかり作成して、危機管理体制に臨んでいきたいと思っております。

**【会長】**

はい、分かりました、ありがとうございます。3つ目の質問でございます。ちょっと抽象的になりますけれども、児童の発達課題に応じた主体性の育成についてどのようにお考えでしょうか。

**【申請団体②】**

現在運営している学童でも、発達障害の方をお預かりしております。そこについては加配の職員もおりますので、見守りをしっかりさせていただきながら、その児童さん一人一人に対しての発達の度合いを考えながら専門的な、今回養護教諭等の採用も3月より控えておりますので、そういったメンバーをフル活用していきながら、職員全体で見守っていきたいと思っております。

**【会長】**

ありがとうございます。私の質問は以上でございます。

委員の皆様方から様々な御質問等があると思っておりますのでよろしく御協力ください。

**【委員】**

安全面のことでお聞きしたいのですが、職員の方、アルバイトの方も含むのですが、もちろん消防署から来てもらって講習を実施しますが、そのような講習は採用されて即実行されるのか、ある程度時期が経ってからそういった講習をやられるのか、どうなのですか。

**【申請団体②】**

各自治体の子ども子育て支援員であるとか、そういう研修等に枚方市の部分がありましたら、そこをぜひ研修を受けさせていただきたいと思っているのですが、まずは、今現在来ている職員に関しましては、今研修で蘇生法とかを正しくこの12月に受けるよというのは、2回、3回と班でさせていただいております。新しいアルバイト等の方が、もし採用になった場合に関しまして、その都度一番大切な部分だと思っておりますので、研修をさせていただきたいと思っております。

**【委員】**

今までやられた方は、初級ですか、中級ですか。

**【申請団体②】**

中級のメンバーもいますし、今現在、12月に行うものは初級の方になります。

**【委員】**

分かりました。ありがとうございます。

**【委員】**

いくつかあるのですけれども。最初に、運営委員会を作って運営しているという、地域の人ですとか、様々な方を入れて、委員会を作ることだったのですけれども。その運営の仕方というのが、どういう位置付けで、この事業とどう関わりがあるのか、よく分からなかったのも、もう少し詳しく、運営委員会の役割は何なのか。そこに職員の方とはどういう関係性を持っていくのか。この事業との関わりはということなのか。ということ、説明してください。

**【申請団体②】**

運営委員会の規定は、今整備している途中なのですけれども、まず、経営方針として、例えば、何か運営委員会が決議できるというところまでは、まだ考えていません。基本的には役員が最終決断をしていくのですけれども、その中で、役員だけで狭い範囲で決めてしまうと、どうしても視野が狭くなってしまいうということ、言ったら御意見番という形にはなるのですけれども、いろんな意見を吸い上げるという意味で、運営委員会を組織するというのと、コンプライアンスという面では、きちんと報告することで情報公開はもちろんホームページや役所に提出する書類を関係者にちゃんと情報公開することで、役員側が襟を正すといったきれいな組織になるようにということ、運営委員会を考えています。

**【委員】**

経営者ではないのですね

**【申請団体②】**

そうです。

**【委員】**

次に、オープンスクエアとそれから児童会室というのがあるのですが、こちらのほうに書かれているのが、一緒に併記しながら、いろいろ書かれているのですけれども、児童会室の目的・目標、それとオープンスクエアの目的・目標は、それぞれ特徴があると思うのですが、どのようにお考えでしょうか。

**【申請団体②】**

児童会室につきましては、やはり就労のお子様をお預かりさせていただくという点で、まずは宿題等の見守りをさせていただき、そして、おやつを提供をさせていただき。その中で、興味を引くものをやっぱり飽きさせないという部分でしっかりと取り組んでいきたいと思っております。弊社では、ネイティブの先生の英会話教室等、またそろばん等、そういうことも無料で今現在させていただいておりますので、そういったものが組み合わさってできる時間帯と、また月1回とか2回とかそういう形ですけれども併用させていただいて、子どもたちのわくわくするような児童会室にしていきたいと思っております。

オープンスクエアに関しましては、元教員の先生方の御協力を得て、高学年になってきますと、勉強のほうの見守りも大変になってくるかと思っておりますので、そこも元教員の先生方の御協力を得て、させていただきながら、大きい人数になってくると思っておりますので、実験教室、先ほど説明させてもらった、そういう部分で子どもたちと共にしていきたいと思っております。また、イベント等も、クリスマス会やハロウィンやいろんな形で、七夕など、そういうオープンスクエアでしかできないものを提供していきたい、そのように考えております。

#### 【委員】

もう一つ、オープンスクエアとそれから児童会室は別々のときもあるし、運営は一体化していくということなのですが、どのように現実的に運営されていくという計画は、どんなふうになっているのでしょうか。

例えば、児童会室のほうには、何人ぐらいを配置して、それからオープンスクエアのほうには何人ぐらいを配置して、それからそれを一体化運営していくということは、どんなふうになるのでしょうか。

#### 【申請団体②】

職員の配置ですか。

#### 【委員】

はい。実際の配置のことと支援の仕方についてです。

#### 【申請団体②】

職員の配置に関しては、各教室に、先ほどお伝えさせていただいたような人員配置をさせていただきます。

#### 【委員】

分かりました。班を作ってしていくということですね。

#### 【申請団体②】

そうです。1班に対しての人員配置をさせていただいて。また、オープンスクエアに関しましても、土曜日のみだけではなく、平日ももちろん開室していくという方向になりますので、その人数に合わせた配置になっていくかと思っております。

できる限りの人員という形で、フルに運営していきたいと思っておりますので、先ほど申し上げたように、ボランティアの方等もたくさんいらっしゃいますので、そして関西外大のボランティアの方と事務局の方のお力をお借りしてということでお話をさせていただいておりますので、そういった方々の御協力を得て開催していきたいと思っております。

**【委員】**

私からもよろしいでしょうか。お聞きしているとアットホームな事業展開というのが、基本的なお考えかなと思います。

それはそれで、とても魅力的なところですし、アットホーム型だからこそ一人一人を見てということもあるのかもしれないのですが、そうなってくると、今ここで御提案されている人数の確認なのですけれども、先ほどちょっと4人というところが、基本は2でとおっしゃっていたと思います。

基本2名が入っているので、いいのですか。

**【申請団体②】**

児童会室に2名。オープンスクエアに2名です。

**【委員】**

ということは、児童会室では2名。オープンスクエアのほうでも2名という考え方でいいですか。

**【申請団体②】**

1班に付きです。

**【委員】**

要は、4人は別々の人ですね。

1班に4人、必ずいるということですか。

**【申請団体②】**

1班しかない小学校であれば、4人いているということです。

**【委員】**

ということは、2班体制のところは、8人ですか。

**【申請団体②】**

そうですね。

それをシフトで回していくということです。

**【委員】**

シフトで回していく。8人いるのだけれどシフトで回していくということですか。

**【申請団体②】**

今、2班体制のところは、表の見方を間違えていたと思うのですけれども、1班にその日、その時間帯においては、2人。2班も2人で、オープンスクエアに2人。2班体制のときは、6人いる、職員数で6人になるということかと。

**【委員】**

じゃあ、ここで4、4と書いてあるのは、実際の実人数としては6人で動かしていくということですか。

**【申請団体②】**

そのときにいる人が6人。

プラス、土曜日だとかお昼休憩が入らないといけないときには、そこに入れるという人を、1人入れる。

**【委員】**

要は入れ替えですね。

**【申請団体②】**

そうです。

**【委員】**

ということは、例えば2人入ったら、2人抜けるということですね。

**【申請団体②】**

そうですね。

実質6人で計算しています。児童会室に4人。そして、1班の児童会室に4人いる。

**【委員】**

常に、常時何人配置というふうに考えていたらいいのですか、これを見ると。

**【申請団体②】**

平日に関わらず、児童会室とオープンスクエアがある日。

2班ある学校については、6人。

**【委員】**

2班体制のところは、6人。1班体制のところは、4人ですか。

**【申請団体②】**

オープンスクエアとは、別仕立てで考えておりますので。統括責任者がその学校につき1人。サブリーダーも1人。そこが2人になりますよね。あと、支援員・スタッフのメンバーが2人ないし4人ということですね。

**【委員】**

2人ですか。

要は、常にそののところに、子どもがいようがいまいが、特にオープンスクエアは、子どもたちが多いときも少ないときもあるわけです。

多かろうが、少なかろうが、とにかく4人は絶対にいるという数ですか。

**【申請団体②】**

絶対にいる数は、例えば、山田だったら4人。

**【委員】**

山田だったら1班なので4人でいいですね。

**【申請団体②】**

はい。

**【委員】**

2班体制のところはどうなんでしょう。

**【申請団体②】**

6人。2、2、2で6人。

**【委員】**

2、2、2で6人ということは、だから、これは4、4と書いてある8というふうに見えますけれども、そこは6ということですね。

**【申請団体②】**

そうですね。4人のスタッフで回すという意図です。

**【委員】**

ちょっとその確認を、先ほども話があったので。子どもが来るときもあれば来ないときもありますよね、人数が多いとか少ないとか。例えば、学習指導要領も変わって子どもたちの主体的な活動といったときに、子どもたちはいろんな活動をさせたい、あるいはするということ的前提になったときに、いろんなところに分散する場合がありますか。

**【申請団体②】**

あります。

**【委員】**

そのときには、どうされますか。例えば、3人では絶対足りないといった場合はどうされる。そのときに、それはさっきの運営体制にも関わるのですけれども、協議をする時間がないのですよ。瞬間、瞬間で判断しなければいけなくなった場合はどうされるのか。あるいはその人数を、どう確保されているのか。その辺を教えてくださいなのですが。

**【申請団体②】**

人員を増やす。また、例えば、イベントがあるよといったときには、たくさん子どもたちが集まってくるのを、予測した上でそこに人員を配置していくことを考えています。

**【委員】**

イベントは、ある程度人数が読めると思うのですけれど、そうではなくて、日頃の活動、多様な活動をとというのが基本的な学校の考え方にもなるし、教育の考え方にもなってきたときに、いろいろな可能性があるわけですよ。そうすると、こちらの思惑どおりで、今3人しかいないから、この中でやってねと言うのでは駄目なのですよ、基本的には。そうすると、いろんなところでいろんな活動も、例えば、この活動をこっちは用意しているから、これをやってねでは駄目なのです。そうすると人がどうしても出てきますよね、そのときには、どのようにお考えになるのかなと思っています。

**【申請団体②】**

私たちが予算を組むときに、そこをすごく話合っ、人件費をどれぐらいかかるだろうというのを、計算して悩んだところではあるのですけれども。5年間で様子を見ないといけないので、月々の様子を見ながら必要な職員はもちろん増やしていきます。

あとは人件費の試算なののですけれども、これは5年間の平均賃金、今最低賃金が、大阪府で1,027円になるのですけれども、そこから5年間かけてそれは上がっていくだろうなという今の情勢から見て、そのマックスのときの金額で試算して、最低これだけで運営できるなというところなので、そこら辺の費用で柔軟な対応をしていくというふうに考えています。

**【委員】**

ありがとうございます。その辺は確かに難しいところがあると思います。

御提案いただいたように、いろいろな方々とつながって、あるいはボランティアさんというようなことがあれば、その体制づくりをお示しただけといいとおもいます。例えば、この場合にはこういうボランティアと、これだけの人数を常に確保しているのか。あるいは、そこは常にこの人たちは確保できていますというようなことがあるのであればとか、



その辺をまた御検討いただくようなことが、実際の運用のところに出てくるかなと思います。回らないでは大変だと思いますので、運営体制のところは誰が決めて、誰が即時に判断していくと。どこから引っぱってきて、常に配置できるとか、例えばボランティアさんのグループと組み立てを作っていたとか、何かその辺がもしかすると実際の運営のところでは、必要になってくると感じました。

**【委員】**

私からも、重複することもあるかもしれませんが、やはり人員配置が一番気になる場所です。代表者さんの人脈で人を雇いたいというところとか、9ページの最後のほうのところにも、知人に声かけとかいう言葉が結構目立つのですけれども、やはり大切なお子さんをお預かりする事業だと思うので、子どもたちの中でも慣れとか、そういうことも必要だと思います。

先ほど、必ず正社員の方が、1人入られるということと、あとは知人さんであるとかアルバイトさんであるとかを、シフトで回していくというようなお話があったのですが、そこは毎回人が変わるとか、いつもこの先生がいないとか、そういうことにつながるのではないかと、ちょっと不安になったのですが、そこはどうお考えでしょうか。

**【申請団体②】**

有償ボランティアという形で考えておりますので、毎回変わるということはありません。だから、ここの山田小学校には、元教員であられたこの先生に行っていただくとか、そういう配置をきっちり整えていきたいと思っております。

**【委員】**

そうすると、この学校にはこの先生が何日かは必ず来るよ。というようなイメージと思ってよろしいでしょうか。

**【申請団体②】**

はい。

**【委員】**

先ほど、委員のほうからもお話があったのですが、やはり対応の方法、どうされるのかというのは、一番気になる場所であると思うので、今の状態だとちょっと不安かなと思うところがあります。もう少し、必ずこういう団体に来ていただいているとか、今までの御経験であるとか、今現在の状況であるとか、そういったものをお聞かせいただければありがたいなと思います。

**【申請団体②】**

枚方市で御勤務されていて、今は定年されて2年目の元小学校の先生にも、2名声をかけさせていただいておりますし。茨木市の元教員の方も2名。あとは高槻の教員の方にも1名、

今現在5名の教員、定年された方にお約束させていただいております。枚方が決まりましたら、よろしくお願ひしますということで。もう、協力させてもらうよということで、応援いただいております。あと、先ほどお伝へした、学生ボランティアの方とかも、話の方は進めさせていただいております。あと看護師のメンバーも、先ほどお伝へしましたけれども、3月より、養護教諭兼看護師、保健師、助産師という形で免許を持っているメンバーも当社に入っていただくということになっております。

**【委員】**

ありがとうございます。

**【会長】**

ほかに委員方から、御質問等はございませんか。

**【委員】**

今回、申請団体②が、応募いただいたのが中部ですよ。

ほかのエリアも事業者さんも、例えば、何かがあったとき、あるいは連携を取らなければならないというときには、その辺のお考えはいかがでしょうか。もしかしたら、申請団体②のほうも助けになることがあるかもしれませんが、逆にいうと助けなければならないという事態が出てくるかもしれません。あるいは、活動の内容も申請団体②ではなくて、ほかのところでもやっているのをこれを取り入れてくださいというようなこともあるかもしれません。その辺に関しての御対応とはいかがでしょうか。

**【申請団体②】**

今の御提案に関しましては、枚方市の先生方と共に、できる限りのことを全面的にさせていただきますたいと思っております。

**【会長】**

特に最後におっしゃりたいことがあれば、お伺ひしますけれども。

**【申請団体②】**

本当に高槻の地より参りましたけれども、同じ北摂地域の住民といたしまして、この枚方の方々の先生方が積み上げて来られた、本当に御尽力して下さった未来の子どもたちのための取組を、ぜひともお勉強させていただきたい、胸をお借りしたい、その一心で参りましたので、今日は不備がたくさんあったと思いますが、どうか今後とも御指導のほどよろしくお願ひいたします。本日はありがとうございます。

**【会長】**

長い間お疲れさまでした。ありがとうございます。

<申請団体退室>

【会長】

今の時間配分的には、どんなものだったのですか。

【事務局】

今で質問は30分です。

【会長】

先ほどと、ほぼ一緒ですね。分かりました。

特に、よろしいですか。なかなか難しいですね。 そうすると、休憩としましょうか。

<休憩>

【会長】

よろしいですか。それでは、審査会を再開させていただきます。準備がよろしければ、事務局で申請団体の誘導をお願いいたします。

<申請団体③ 入場・準備>

【事務局】

よろしいですか。

【申請団体③】

はい。

【事務局】

それでは、ただいまから、プレゼンテーションを行います。

プレゼンテーションは、初めに団体名及びプレゼンテーションされる方のお名前を述べてから始めてください。なお、プレゼンテーションの時間は35分となっております。終了1分前になりましたらベルでお知らせし、所定の35分になり次第、終了とさせていただきますので、御了承ください。

なお、プレゼンテーションが終了しましたら、引き続き、委員の皆さんからの質問にお答えいただきます。

準備はよろしいでしょうか。

【申請団体③】 提案内容概要書等に基づいてプレゼンテーション実施

**【会長】**

どうもお疲れさまでございました。

今から、私のほうで3点順番に質問させていただきまして、これは各事業者様に、みんなに共通で聞いている部分の質問となります。その後、各委員から個別に、また御質問させていただきますのでよろしく御対応ください。

私のほうから、質問1です。配置職員の体制及び資格等、従事者配置についてどのように考えておられますか、重複する部分があるかもしれませんけれども、完結にお答えいただけますか。

**【申請団体③】**

ありがとうございます。職員配置についてですが、先ほどのプレゼンテーションでも申し上げたとおり、各エリアに責任者、サブリーダー、主任を1名ずつ兼任せずに配置する見込みです。また、統括責任者中からエリアリーダーを1名配置することで、全体を総括する責任者を配置する予定です。そうすることで、エリアごとでの状況をしっかり共有できるような体制を整えたいと考えております。

**【会長】**

ありがとうございます。2番目の質問でございます。事故や自然災害、不審者侵入時に対する安全管理体制についてどのようにお考えでしょうか。

**【申請団体③】**

まず、事故の場合などの緊急性が高い場合においてなのですけれども、弊社では実際の例を申し上げますと、熊本地震が九州であった際には、約3日分の衛生品や食事、あとはお水の323リットルほどを実際に現場に持っていくことができました。そうした対応も本社本部やほか支店からの協力があったところできたこととだと考えております。実際は緊急時の体制というところは、そういった大きい事案が発生するケースのほうが多いかなというふうに考えておりますので、現場だけで対応するのではなく、本社本部のほうから対応できるような体制を構築しております。

事故につきましては、こちらに記載があるのとおり危機管理マニュアルなどを、全社統一で各広場に設置させていただいております。職員によって対応レベルが異ならないように、フローチャートまで作成し、様々なケースにて対応マニュアルを作成しております。こちらの内容に則り誰もが等しい対応ができるように整えております。

不審者の内容も同様なのですけれども、防犯・防災の計画を年間で立てておりますので、防犯訓練なども合わせて行っております。

**【会長】**

ありがとうございます。3つ目の質問ということになります。ちょっと抽象的な質問になりますけれども、児童の発達課題に応じた主体性の育成について、どのように考えておられますかという質問でございます。

### 【申請団体③】

例えばですが、同じ小学1年生でも、発達の具合が違って運動能力が違うなということでしょうか。

弊社では、基本サービスとしては、体操教室というのを必ず各クラブでさせていただいております。こちらが小学校の児童クラブ以外でもさせていただいているサービスになります。専門職員を本社で抱えておりまして、その専門職員が過去のデータや実績、もしくは現場を視察した結果、それぞれの年齢や性別差に合わせたプログラムを作成しております。一例で申し上げますと、例えば、体育館をお借りしたときに、8ブロックに分けて小学校1年生で運動能力が少し低いお子様に対しては、その1ブロックを使う。運動能力が高く、積極的に体を動かしたい子に関しては、2ブロックを使い、そちらを使うなどの対応をしております。

### 【会長】

ありがとうございました。それでは、委員の皆様から質問させていただきたいと思います。どうぞ御自由に御発言ください。

### 【委員】

さまざまな催しもの、例えば南部であればブドウ狩り、百人一首、スポーツなどは、オープンスクエアで実施しようとしているのですか。

### 【申請団体③】

基本的には児童クラブのほうで実施したいなというふうに考えております。

### 【委員】

今、枚方で実施している枚方子どもいきいき広場という事業があるのですけれども、それとの関わりはどのように考えられていますか。

### 【申請団体③】

放課後などで、一緒にグラウンドを使うケースとかも、スケジュールの調整上出てくとも思っています。そういったときは、一緒にグラウンドで遊べるドッジボール大会など、そういった連携というか、子どもたちの交流の場を作っていくと考えております。

### 【委員】

今やっているのは、枚方子どもいきいき広場が午前中に終わります。終わった後に、オープンスクエアに替わるのです。一緒ではないのです。

だから、今言われたいろんな催しものは、各枚方44小学校区あるのですけれども、そこで各々がいろんなメニューを組んでやっています。例えば、ブドウ狩りや、ハイキングとか。学校で農園があるから、そこで野菜づくりをしようとか、いろんな催し物が実施されていま

す。それが終わった後、残った子どもたち、あるいは昼からも居場所づくりのためにオープンスクエアを実施して、そっちに移動していくわけです。そこで自由的な発想でやられていて、非常にいいことを言っているのですけれども、僕の感覚からいえば、ちょっとずれがあるような気がします。

**【申請団体③】**

オープンスクエアで、例えば、ブドウ狩りとかそういったイベントを、中心に行っていくというところはあまり考えていないですね。あくまでも、児童クラブのほうで実施をする。

**【委員】**

児童クラブというのは、留守家庭児童会室のことですか。

**【申請団体③】**

そうです。

**【委員】**

分かりました。

**【申請団体③】**

イベントとして、そういった行事をするという意味合いになります。

**【委員】**

以上です。ありがとうございます。

**【会長】**

よろしいですか。ほかの委員はいかがですか。

**【委員】**

いろいろ精力的な御提案をしていただいていると思いました。

先ほど人員のところがありましたけれども、資料でいくと、15ページのところに、それぞれの人数のことを言っていたかと思うのです。このニュアンスでいえば、北部で51名、中部で37名、南部で56名、東部で61名、全部で205名ということですね。要は205名の人を確保するということでのいいのですか。

**【申請団体③】**

はい。考え方としては、そのとおりです。

**【委員】**

そういうことですね。牧野のところていくと、14名確保している。14名のところてい

くと、ここは3班体制になっていって、児童会室で7、オープンスクエアで3。2班のところで児童会室が7、3班の児童会室で7ということですね。だから、延べでいくと24人ですよね。

**【申請団体③】**

資料に関しては、ちょっと資料の数字が分かりづらかったと思いますが、あくまで、第1クラブ、第2クラブを兼務する職員もいる中で、1日の配置数という意味合いです。

**【委員】**

兼務する職員もおられる。1日の配置数という。

**【申請団体③】**

そうです。夏休みなど長期期間中には、通常よりもやはりお子様がいらっしゃる時間が長くなってきますので、そういった人数はこちらに含めずに、基本的な平日の人数としてこちらを作成しました。

**【委員】**

ということは、この15ページにあるような、牧野でいうと、常時14名が常駐するという感じでいいのですか。

**【申請団体③】**

そうです。基本的には職員がこの人数で出しています。

**【委員】**

分かりました、ありがとうございます。そういう意味で、学習指導要領も変わっていき、いわゆる主体的なというキーワードも出てきているというのがこの御提案だと思います。先ほどのお話とも関係するのですけれども、いろんな教室とかイベントというのは、今までもあるしということもあるのですけれども。今やろうとしているのは、日々のところで主体的な、行事とか教室とか、どんな活動をしたいと言ったときに、いろんな活動をしたいということを組み立てているだとか、そういうものを流していったり、当然エリアが広がっていったりとか。10人の子どもたちに対して、場所が分散していくと、単純な話をすると、10カ所に分散するかもしれないですね、あるいは10の活動になっていくかもしれない。そうすると、例えば10人、場合によっては必要ということがあったりする。それはイベントとかではなくて、日々の活動でやりたいと先ほど申しましたけれども、こんな工作をしたい、でも音楽もやりたい、あるいは運動もやりたい、でもそれは別に特別な運動、体操教室とかではなくて、普通に運動をしたいということもあったりするわけです。そういったときに、例えばこれだけの数をいったときに、連携ですよ、もしかしたら全部のこれだけの地域をやるので、もしそういうことがあった場合には、どのような連携とか、サポート体制だとかというようなことも出てくるのかなと思っていて、その辺はお考えとか、主体的

というような活動に対して、その辺のサポートのお考えがもしおありでしたら、教えていただけたら。

**【申請団体③】**

ありがとうございます。子どもたちが主体的に活動できるようなことですね。

**【委員】**

そうです。日々のそういったことに対してのどんな取組を、あるいはイメージされているのか。あるいは既にいろんなところで、もう御経験あるのかもかもしれませんけれども。

**【申請団体③】**

そういったものが福岡市の事業でさせていただいているのですけれども、放課後等の遊び場づくり事業、わいわい広場というものがあるのですけれども、こちらが預かりではなく、子どもたちの遊び見守る事業を、弊社のほうで3カ所させていただいております。こちらの内容が、恐らく物すごく近いのかなと思うのですけれども、そこも先生方のほうからのこういう遊びをしたりとか、一緒にこれで遊ぼうという事業ではなくて、子どもたちが自分からどういう遊びを選んでいくかという事業をさせていただいております。そのきっかけづくりとして、うちでさせていただいている内容としては、遊びの種というような本を実は作っております。子どもたちが自分で見て、今日はこの遊びをしようとか、じゃあこの遊びとこの遊びを踏まえて、今日はこういう遊びをしようなどをしてしております。それを先生方が止めたりとか、誘発したりすることがないよう、あくまできっかけを与えて、それを見守るような事業をしてしておりますので、そういった視点での対応は可能かなというふうに思っております。

**【委員】**

それと、あといろいろな、例えば今回4ブロック立候補していただいているわけですが、もしかすると全部ではないかもしれない。そのときに、例えば、いろいろなところでほかの事業者さんと連携しなければならないというか、あるいはしていただいたほうがよりいい事業というふうになっていった場合のその辺のお考えとか、あるいは取り組み方とか、もしお考えがおありでしたらちょっと教えていただけたら。

**【申請団体③】**

そのケースも非常に高いのかなというふうに思っております。実際に、最大で4業者様が入られる形にはなるかと思うのですけれども、うちからもし可能であれば御提案したいところが百人一首大会というものを、自治体全体のクラブとして、ほかの自治体様ではさせていただいております。主に体育館とか大きいところを借りて、させていただいているのですけれども、そういった交流会みたいなものはさせていただきたいなというふうには考えております。

そのほかですが、実際に子ども向けの分と、あとは働く職員様の分の目線があると思いま



して、職員同士の交流もできればしたいなというふうには考えています。例えばですけれども、うちの定例会はあるのですけれども、Aクラブでやっていた内容を、BかDのクラブにこういった場を設けてプレゼンテーションをすとか、そういったところで、お互いがよりいいサービスを提供できるような、そういった関係性を構築できればなというふうには考えております。

#### 【委員】

今は福岡がメインとお聞きしていて。福岡だと、何かあったときにサポートで入っていただくにはちょっと遠いのかなと、距離感がというところがあるのですけれども。

その辺は何かお考えというか、もうちょっと身近なところで用意する考えはありますか。

#### 【申請団体③】

弊社は九州のほうでもあるのですけれども、児童クラブの運営以外でも、保育所の受託運営をさせていただいていることが、かなり多い箇所もさせていただいております。その中で、保育所のほうで放課後児童支援員の資格を兼任で持たれている職員が多数在籍しております。一例で申しますと、お互いではあるのですけれども、保育士資格を持っている、放課後児童クラブの職員が保育所に人数が足りないときに手を貸したり、保育所のほうで児童クラブの経験や資格を持つ方が、児童クラブに入っていたり、そういった対応が実はコロナの影響で、職員が結構ダウンしてしまったときには、行うことができました。

そういった対応をさせていただいておりますので、大阪のほうでも現在こちらの枚方市内にも1店店舗を構えさせていただいておりますが、福岡からはやはり遠いと思いますので、大阪市内やあとは兵庫県や岡山など、少し身近なところからそういった対応ができるように体制は構築していこうと思っております。

#### 【会長】

大阪支店は、正規社員は何人ですか。

#### 【申請団体③】

今、弊社の社員は6名になります。

#### 【会長】

そうすると、フォルテという会社は、協力会社ですか。フォルテという会社が、関連されているみたいなことを、御説明であったのですが、この位置付けは、どうなるのですか。

#### 【申請団体③】

フォルテは、介護に特化して有料老人ホームのサービス型高齢者住宅、こちらの運営を行っている会社になりますので、今、非常に保育所もそうなのですけれども、介護のほうもそうなのですけれども、やっぱりいろんな形で入居さんと園児さんの交流等もここ最近非常に要望として上がってきておりますので、今ちょっとその取組をスタートするということが、

今事業を横断したプロジェクトを起こしてはいくのですけれども、今のところはグループの中では、同じ所にこれから同居して事業を進めていくという形には、なってまいります。

**【会長】**

グループ企業さんみたいな感じの理解でよろしいですか。

**【申請団体③】**

そうです。今年の2月に親会社であります、ホールディングスが株式を取得したという形でスタートしたばかりです。

**【会長】**

そういうことですね。ありがとうございます。

**【委員】**

スタッフの中には、社員の方とそれからあとはアルバイトだとか、そういうふうな非常勤の人も当然含まれるわけですね。その人たちの確保の目安と、それからその人たちに対する入ったときの研修とか、それはどのようにお考えですか。

**【申請団体③】**

職員の雇用形態については、統括責任者とサブリーダーに関しては常勤社員を考えております。主任は兼務しないので、主任は置くのですけれども、主任以下のスタッフに関しては、非常勤パートというところを検討しております。

また、職員の研修計画については配置前の研修、こちらを必ず行っておりまして、御時世の兼ね合いもありますので、恐らくリモートにはなるのですけれども、最低月1の定例研修、それから配置前研修を週間単位で行っております。実際に研修内容については、保育に入れるときには、引き継ぎ保育という形も加味して、プログラムは組んでおりますので、内容としては座学と実務と両方ともさせていただいております。また、児童クラブの経験がない職員も積極的に採用はさせていただいております。そういった職員に関しては、例えば、児童クラブのほうに一時的に、児童クラブというのは、こういったもののだといったような研修ができるような体制を整えるなど、そういった検討もさせていただいております。

**【委員】**

そうすると、エリアリーダーという方がいて、その方がエリアで1人ということですね。それはエリアリーダーとして専門にいるわけですか。

**【申請団体③】**

失礼いたしました。エリアリーダーについてなのですけれども、例えば、牧野小学校の統括責任者が北部のエリアリーダーも兼任していただくような、そういうイメージ体制になります。なので、弊社で4ブロックを御選任いただいた場合には、エリアリーダーは4名、統

括責任者はエリアリーダーを兼務している者を含めて、22名の人数となります。

**【委員】**

ありがとうございます。それから、その下にサブリーダーという方がいらっしゃる。  
このサブリーダーは、統括責任者ではないので、どういう立場の方になるのですか。

**【申請団体③】**

リーダーも日によっては、もちろんお休みの日とかもありますし、事務作業のフォローで実際の現場保育の職員の質の研修等もできない場合がありますので、当社からトップダウンマネジメントを推奨しておりますので、統括責任者が不在、もしくは業務上指導ができない場合には、そういったときにはサブリーダーから指導や育成をしていただくような体制になっております。

**【委員】**

そうすると、その下の主任となっていますけれども。スタッフの方たちは、今度は非常勤というか、社員でない方が勤務するということになるわけですか。

**【申請団体③】**

そうです。

**【委員】**

人数、人員配置とそれから人件費の関係についてお尋ねしたいのですけれども。大体、その人件費が委託料の申請額の半額以下というところとかも多くてですね。特に、児童会室は半額で、オープンスクエアについては、かなり大きかったりしているのですけれども、例えば、北部で51名雇っていただくということで、そのうち統括さんとサブリーダーさんは、正社員さんということで、この金額でいけるのかなというのが、少し心配かなと思います。かなりちょっと低めなのかなと思うのですが、そこら辺と、社会保険の金額についても、書いていらっしゃるのですが、その算定根拠がちょっと4カ所ともばらばらなのかなと思ひまして、ここの計算根拠を少しお話いただければと思うのですが。

**【申請団体③】**

人員配置については、記載のとおりになるのですけれども。実際の職員に係る経費に関してなので、実際は時給のところは、統括責任者とサブリーダーの月給はいくら、主任は時給でいくら、それ以下のスタッフさんに関しては、経験に応じていくらからいくらという幅を持たせて積算させていただいております。その中で、先ほどの人数プラス、実際に弊社で運営している児童クラブの実際の法制比率のほうから算出はさせていただいております。もちろん雇用においては、基本的にはその常勤者を必ず配置することを目標として、その統括責任者やサブリーダーは設置させていただくのですけれども、場合や規模によっては、時給者でも、例えば月間の労働時間数の兼ね合いなどもありますので、そういったとこ

ろで、例えば1クラブしかやってないところは、もしかしたら月給者ではなく、時給者になる可能性があることを含め、計算はさせていただきます。なので、それぞれのところでの根拠が全くばらばらになってありますので、一概にこういう計算方法でやっているというやり方ではないですね。

**【委員】**

そういうことは、統括さんとかサブリーダーは必ず正社員ということですか。

**【申請団体③】**

常勤雇用者になります。 月給のパート様です。

**【委員】**

もう1つ、通信費というので、かなり大きな金額を上げてらっしゃるのですけれども、例えば、北部だったら、児童会室で2, 500万。1年にすると500万以上の金額が、通信費で上げられているのですが、これは何を想定されてこの金額ですか。

**【申請団体③】**

児童クラブにおいてなのですけれども、固定の通信費用で、例えばネット環境であるとか、携帯電話を持たせたいなというふうに、考えているのが基本の内容としてはあります。

あとは、先ほど申しあげました研修を、基本的にはオンラインで、できるだけ本当は毎日やりたいのですけれども、状況によってはできない場合がありますので、オンラインリモートなどを活用させていただくものは、通信費用として計上させていただいていることがございます。

**【委員】**

外部委託費には研修もあれば、イベントもあればという形で、どちらもかなり大きな金額があって、1年間で北部の児童会室で、1,000万ちょっとになると思うのですけれども。これはどういう中身になるのでしょうか。

**【申請団体③】**

例えば、職員研修とこちらで書いている分に関しましては、外部の研修を受講しに行ってください費用であったり、講師をお招きする料金といったものを積算しております。あとは学童保育協会様と、うちが提携させていただいているのですけれども、そのコンサル費用ではないですけれどもそれに近い費用を、加味してこちらの金額を入れております。

**【委員】**

それが一番大きいですか。

**【申請団体③】**

単価としては、実はお子様1人当たりにかかる経費のところの積算額のほうが大きいかもしれないですね。例えばなのですけれども、ブドウ狩りとかをもしやる場合は、人数掛けるブドウ狩りの料金だったりとか、そういう積算方法を取らせていただいたりするので、トータルで見えていくとお子様にかかるイベントの単価のほうが高く付いてはあります。

**【委員】**

10ページに書いてある経費に関する計画で、行事名が書いてあったのですが、その金額とちょっとあまりにも金額が違うのかなと思ひまして質問させていただきました。

あと、ホームページについても、本部からスタッフさんを各場所へ派遣するような経費とかもここに入っているということですか。

**【申請団体③】**

本部管理費に関しましては、事務局職員の人件費に主に使わせていただいている分になります。あとは交通費、求人広告費用というところが、人数も多いところではありますので、自社サイトだけでは運営が賄えないというふうに考えておひまして、そういうことも本部経費のほうも金額が少し高くは見えるとは思ひます。

**【委員】**

ありがとうございます。

**【会長】**

よろしいですか。委員の皆様、御意見、御質問等はございませんか。

**【委員】**

いろいろなマニュアルがあるのですが、例えば、不審者侵入のフローチャートですか、その後の消防等の連絡先というのが、東京とか福岡となっているのですが。やはり枚方で起きたことでもこちらのほうに、枚方の支店というのはどういうふうな位置付けになるのですか。

**【申請団体③】**

枚方をオープンした場合の支店ということですか。

**【委員】**

はい。

**【申請団体③】**

管轄しているのが大阪支店ですので、基本的には大阪支店の所属に入ようになります。マニュアルに関しましては、統一のものになってありますので、連絡がつかない場合がど

うしても出てくる可能性がありますので、そういったときにそういったときのためにも広く作成させていただいています。それとは別で、各現場での細かいフローチャートは掲載しております。例えば枚方市様の場合ですと、職員、自治体様からの御要望、また統括責任者もしくはエリアリーダーから、御連絡を入れていただく体制を作っています。エリアリーダーや統括責任者で受けて、報告を受けた内容に関して、また右側の支店担当者であったり支店責任者、行く行くは本社営業部まで情報が吸い上がっていくような形を取っております。内容等は必ず本社本部までフィードバックするには指導教育はしておりますので、必ずどんな案件でも本社本部まで内容は届くように策定はされています。

**【会長】**

よろしいですか。長時間にわたってお疲れさまでございました。

**【申請団体③】**

ありがとうございました。

<申請団体退室>

**【会長】**

2エリア以上のところは、時間が長くなるのでしたよね。事務局、時間はどうでしたか。

**【事務局】**

質問時間は30分程度でした。

**【会長】**

事務局のほうへ何か御質問等はございますか。昔であれば福岡なんかといたら、えらい遠いところだというような思いがあるのですけれども、今はいろいろSNSとかいろいろあると、福岡であったとしてもそんな遠いというふうに考えなくてもいいのですかね。どうでしょうか。

**【委員】**

大阪市内に民間の保育所をもうされているので。  
もし何かあったときには、そこから呼んでもらえるかと思いました。

**【委員】**

大阪近辺にどれぐらいの基盤というか、人材確保の基盤があるかどうかなのですか。聞いていて気になるのは、もし4カ所全部やるとしたら205人。これだけ集められるのかなとはちょっと気になります。

【会長】

大阪支店は6人でしたかね。大阪でいかに構築できるか、そっちが問題になってきますね。

【委員】

そうですね。

【委員】

あんまり言えないですよ。支社さんの問題だから。悩ましいところがあります。

【会長】

申請団体④を誘導してください。

#### <申請団体④ 入場・準備>

【事務局】

よろしいですか。

【申請団体④】

はい。

【事務局】

それでは、ただいまから、プレゼンテーションを行います。

プレゼンテーションは、初めに団体名及びプレゼンテーションされる方のお名前を述べてから始めてください。なお、プレゼンテーションの時間は25分となっております。終了1分前になりましたらベルでお知らせし、所定の25分になり次第、終了とさせていただきますので、御了承ください。

なお、プレゼンテーションが終了しましたら、引き続き、委員の皆さんからの質問にお答えいただきます。

準備はよろしいでしょうか。

#### 【申請団体④】提案内容概要書等に基づいてプレゼンテーション実施

【会長】

ありがとうございました。それでは、私から各申請事業者に共通で質問させていただいている3点について、順にお尋ねしますのでお答えください。

第1点目は、詳細な御説明をいただいたので、重複される点もあると思えますけれども、簡潔にお答えいただければいいのですけれども、配置職員の体制及び資格等、従事者配置についてどのように考えていますかという質問でございます、お願いいたします。

#### 【申請団体④】

53ページを御覧ください。併せて9ページも見ていただけるように御準備いただけると助かります。それぞれの児童会室につきましては、主任支援員を1名、そして支援員もしくは補助員等を2名ずつ配置するというふうな体制で考えております。ただ、9ページを御覧になっていただきたいのですが、仮に北部の牧野を御覧ください。牧野は3支援単位があるかと思えます。1つ目の支援単位につきましては、統括責任者が主任支援員を兼務いたします。そして、支援員と補助員も配置する計画にしています。2つ目の支援単位につきましては、サブリーダー、これは主任支援員を兼務いたします。そして、補助員も2名配置する。そして、3つ目の単位に関しては、主任支援員を1人、これは主任支援員と申し上げてますが、放課後児童支援の資格をお持ちの方です。そして補助員など2名を基本に考えて、今回後日提出差し上げた資料の表に記載させていただいております。

1つ目の支援単位につきましては、兼務する統括責任者ともう1人は支援員1人を必ず配置いたします。なぜかという、オープンスクエアを運営する際に、事前ミーティングなどはもちろん合同でするにせよ、低学年、高学年が利用開始する際など、また、統括責任者がオープンスクエアも、もちろん巡回対応する必要がございますので、適宜その児童会室現場に、支援員の資格を持っている者がいないということは、よろしくありませんので、1つ目の統括責任者が勤務する児童会室につきましては、支援員を配置する計画でございます。

当然、これは今お仕事をなさっていただいている方々が、継続雇用をさせていただいた場合、もちろん支援資格をお持ちの方がいらっしゃれば、当然補助員ではなく、支援員として配置させていきたいと考えますが、継続雇用が思うようにさせていただけないようであれば、そのような基準配置で進めたいと考えております。これはほかのそれぞれの小学校についても同様な考えでございます。

#### 【申請団体④】

恐れいたしますが、ちょっと補足をさせていただきます。

資格のところをちょっとお答えできてないと思います。資格のところに関しては放課後児童支援資格をお持ちの方、もしくは基礎資格をお持ちの方で順次受けていただく、これは順次研修がございますので、そちらで積極的に基礎資格の方に受けていただいて放課後児童支援員の資格を取っていただく、これもこの事業の本質といいますかマストだというふうに認識しておりますので、そういった職員をどんどん増やしていきたいというふうに思っています。市の条例の中でも、施設の運営基準はあると思いますが、その基準に沿った職員体制を築いていくというのは当然のお話だと思いますので、そういった体制を築いていきたいというところと。

併せて、我々今施設見学はさせていただきましたが、実情を応募させていただいてからの実情を細かく現状を把握しているわけではございません。このオープンデータの中で組める体制として、一般的な体制を組まさせていただきました。したがって、我々のほうで受託を決定させていただきましたら、クラブの実情というのをしっかり把握させていただいた上で、それぞれのお子さんの御事情であったり、動線であったり、環境の状況でも変わってくると思っていますので、そこに合わせた職員配置、適正配置というのは積極的にやっていきたい。



ですので、今お示ししている数字よりも、当然加配が必要だということも当然あるかと思  
います。それは柔軟に対応していきたいというふうに思っております。

#### 【会長】

ありがとうございます。では、2つ目の質問でございます。これも重複する形になると思  
いますけれども、事故や自然災害、不審者侵入時に対する安全管理体制について、御社はど  
のように考えておられますか。

#### 【申請団体④】

事業計画書添付資料の40ページを、まず御覧いただけますでしょうか。安全対策につき  
ましては、やっぱり未然に防ぐといいましても、やはり何が起こるか分からないので、その  
状況に対して、やはり避難訓練もそうですいろいろな実践研修、そしてどういうことが起  
こりうるのだろうという、もしものことを想定して常に異常判断できるスイッチを入れるこ  
とができるかというところが、一番大事だと思っておりますので、実際には研修などを通じ  
て、その危機管理面を座学で理解する、これも一つ全員に必修です。もう一つは、毎月テー  
マを変えて避難訓練・不審者対策などの研修を行ってどういう状況が想定されるか、そちら  
について、まずは体現しながら研修していく。そして、エピペン研修それから救急救命講習  
などについては、地域の消防署の方々や地域の医療系の方々や御協力いただける団体様に協  
力を仰いで適宜行う。その上で常にこういうことが起きるのだ、何かあったらそれが異常だ  
ということが判断できることを理解いただくということを、私どもは啓発そして研修するこ  
とが重要だというふうに考えております。すいません、答えになっておりませんが、その詳  
細はこちらの40ページから記載しているそれぞれの取組をもって、安全を確保していき  
たいというふうに考えてございます。

#### 【申請団体④】

すいません、ちょっとまた補足をさせていただきます。

先ほど説明させていただいた内容のパニックに陥るというのは、これは正に事実だと思っ  
ておりまして、こういった通常と違うことが起こると必ず現場の先生方はパニックに陥り  
ます。我々もいくつか経験しました。ですので、すぐにやはりこれは現場任せではなくて、  
我々法人側のほうも積極的に関わっていくという体制は大事だと思っています。本来ですと、  
我々の会社では、緊急時に各現場に駆け付けられるのは60分以内なのです。この中に必ず  
我々は本部体制というのは、必ず送ったという考え方を持っています。今、我々の関西支店  
は新大阪にあるのですけれども、新大阪から枚方市まで、すっ飛ばせば1時間以内、60分  
以内で来られます。

ただ、今回御提案のほうは、それよりもさらに緊急的に駆け付ける体制を構築するとい  
うことで、市内で事務所を設けるという提案をさせていただきました。ですので、緊急時に  
関しては、その枚方事務所で、まず緊急時にすぐ各クラブに御対応させていただくという体制  
を、今回御提案させているというところをさらにアピールさせていただきたいと思  
います。

### 【会長】

ありがとうございます。3番の質問でございます。ちょっと抽象的な質問になって申し訳ないのですが、児童の発達課題に応じた主体性の育成についてどのように考えておられますかという質問です。

### 【申請団体④】

ページ数で参りますと、15ページを御覧くださいませ。育成の観点として、私どもがお示しするスタイルは、こういう形でお示ししておるのですが、子どもたちのまず発達の段階、やはり学年・年齢層に応じて、関わり方、量というのか、どこまで関わるのか、その関わり方の大小、大きさというのはやはり学年であったり、また成長の具合によっては、男子、女子というところでもいろいろデリケートに考えるべきだと考えております。そうなってくると、やはり放課後児童健全育成を行うにあたって、1つの考え方だけでは対応できない。じゃあどうするのかというのを、やはり一人一人の子どもに向き合って寄り添ってどうしていったらいいのかというのは、これも育成感などの共有をしながら、やはり図っていかねばならないのが一番難しい。私も現場でやっていたところに、苦労したことは、結局子どもたちにどういうふうにしていったらいいのだろうというのを漠然と話をしてもまとまらない。1つの事例を紹介しながらこういうときはどうしたらいいだろうね、やはり見ていくと、同じ学年でも孤立しているお子様がいたり、特に4月に入って新しい年度が始まった、2年生以上の子どもたちはそれまでの関係性がある程度築けていますから、もし仮に複数の支援単位があってクラス替えがあったとしても、やはりそれまでの支援員、補助員の方々がそのまま引き継いでおれば、そんなに子どもたちの環境は変わらないのですけれども、特に新1年生が来たときにまだ友達がいなくて、そのような中で子ども同士の関わりができない状況の中で、その子がどうほかの子どもたちと交わっていかたり、関わっていかたりできるのかというところを考えて対応していかないと、結局楽しくない時間を過ごしてしまうということになってしまうことになるので、やはり自分たちで学校の部分でも自学自習と言いながら、ある程度はリードしてあげないと、やはり子どもたちは自分たちで動くことはできる子もいるだろうし、できない子もいる。だから、そういうことに対して、一人一人この子にとってどうしたらいいのだろうということを中心にきちんと考えられるように、どう共感していく共有していくかということが、研修するときに思うのです、こうだよねと言っても理解だけなので。だから一人一人そういうところを立場上、巡回に行ったときにはそういうような話もしながら、皆さんの価値観、育成感というところを、方向性を合わせることに力を入れるというような取り組み方をしておりました。ごめんなさい、本当に抽象的で申し訳ございません。

### 【申請団体④】

クラブの特徴として、その縦割りの環境というのが1つ特徴であると思っています。特に、低学年、中学年、高学年というふうに、あまり分けるのもどうかと思いますが、低学年、中学年、高学年と分けたときに、やっぱり高学年は高学年の役割として、低学年の子たちをしっかりリードしていくと、お兄ちゃん、お姉ちゃんの立場でリードしていくみたいな、そう

いった縦割りの環境のいい面というのをぜひ生かしていきたいなというふうに思っております。ほかのクラブでも、そういった促し方を積極的にさせていただきまして、やはり高学年の子どもたちというのは、すごく責任感と、あと協調性、あと主体的な面というのは育まれているなという印象を持っておりますので、そういったものをぜひ実践していきたいなというふうに思っています。

#### 【会長】

ありがとうございます。私から質問は以上でございます。ほかの委員からも質問がございますので、よろしくお願いいたします。

後閑先生、どうぞ。

#### 【委員】

すいません、1つ教えていただきたいのですが、51ページですが、現場力ということで、現場で子どもたちに接する人たちへの力を付けるということ、とても重要に思っております。現場力、5つの要素があるのですが、見える化とか言える化ということはよく分かるのですけれども、例えば、標準化だとか、そういうふうなことというのと、それから子どもの教育にあたる、あるいは支援をするという人たちの現場の力ということと、どういうふうに結び付けていいのかなというところが、ちょっと私は分からなかったものですから、具体的に教えていただきたいです。

#### 【申請団体④】

現場力というのは、当社でも非常に力を入れているところであるのですけれども。1つには、ここに書かれているとおり、各クラブで運営していく中で、ちょっと負担になっていること、それは同じ作業を何度も何度もやったりとか、運営しにくい、置き場所がちょっと遠かったりとかそういう非効率的なところを、1つずつ解消しながらより運営のしやすい環境を工夫して整えていくとかということに心掛けます。これをやることによって、最終的に子どもたちに接する時間を捻出することができるので、無駄を省くことは最終的に育成の質を上げるということにもつながります。心のゆとりができますので、より心にゆとりを持って子どもたちの行動を見たり接したりすることができるというのが、現場力の1つの特徴、目指すところだと考えております。

#### 【委員】

それでは、もう1つ。標準化することについては、どういう意味での標準化なのでしょう。

#### 【申請団体④】

標準化と申しておりますけれども、当社いろんな地域でいろんなクラブの運営をさせていただいております。よりよい運営をしているところがございますので、ほかでやっているところでよりよい運営の事例があれば、工夫の事例があれば、それを横展開してよりよい運営

をできるだけ広げていくと、そんなところを標準化というふうに呼んでおります。ほかのところでもやっているいい事例を積極的にほかのところでも投入していく、そういうふうを考えております。

#### 【委員】

それは、具体的に、例えばどういう事例になるのですか。

#### 【申請団体④】

私のほうから、堺市の例で御説明させていただきます。堺市のほうでは、先日あった静岡県の子童さんがバスの中で亡くなってしまう事例を職員さんが受けられまして、非常にやっぱり子童のことが、そういうことがやっぱり放課後子童クラブでも絶対に起こしてはならないということで、現場の職員たちで考えていただいたのが、入退室のシステムを堺市さんでは導入がまだなくて、帰宅した子童とまだ室内にいる子童を、視覚化して分かるように黒板のほうにマグネットシートで、一人一人の名前を書いたものを黒板に学年ごとに並べて書いておいて、帰宅したらそれをひっくり返して、裏面と表面で色を分けてしっかりと視覚化して、出欠の管理を行うというようなことを、視覚化していただいたという事例がございます。そういった事例は事業所だけで考えるのではなくて、エリアリーダーの方でこういう事例があったのでということで、ほかの事業所にも展開させていただいて、ぜひ御活用いただけますかというふうに御提案をさせていただいております。

#### 【申請団体④】

補足です。というのが全国各所であるわけなのです。それを我々の運営、全国の全体的にいいことを共有するという仕組みが、弊社のポータルサイトの御紹介につながっていくわけで、各現場の先生方は共通のポータルサイトから、そういった全国の各事例がいつでも確認できるような状況にあります。今のお話の堺市ではこういうことがあったのだなというのも、枚方市の先生方も、もし御縁ができれば確認できます。東京でやっていること、福岡でやっていること、広島でやっていること、これも分かります。それを拝見していて、逆に枚方市さんで投稿いただければ、それが確認できる、これがいつでもどこでも確認できるポータルサイトを持っているというのが、我々の強みかなというふうに思っています。

#### 【申請団体④】

ちなみに、今のは10ページのところに社外教育水平展開という、良好な運営の平準化というのを図りたいというのが、標準化と記載しておりますが、そういうふうに御理解いただけると。今の取組が10ページ及び65ページにも関連した内容を記載させていただきます。弊社専用サイトを設けておりまして、そちらにこういうときはどうしているのだろうかを、各子童会室や放課後子童クラブの主任さんとかが、気になったときに開けばいろんな事例が確認できるようにしておりますので。また、エリアリーダーは、毎週全国のエリアリーダーが一同でオンラインミーティングを行って、そこではいわゆる苦情、いわゆるトラブルが発生した事例を共有。当然、いいことの共有もしますけれども、やはり、こういう失敗があっ

た、それを改善するためにこういうふうな取組をしましたというようなことで情報共有をいたします。それをすることで、そういう事例があるのだ、日頃気をつけていてもあるのだということで、改めて自覚を促すというようなこともつなげながら全体の運営の質の向上、高めて平準化していくということを主に取り組んでおります。

**【委員】**

ありがとうございます。

**【委員】**

非常に災害とか防犯が、非常に細かく書かれていて非常にすごいなと思って見ているのですけれども。ちょっと教えて欲しいのですけれども、例えば、避難訓練を毎月1回ぐらいやりたいというふうに書かれているのですけれども。オープンスクエアに来る子というのは、登録し、毎回来る子が変わるわけですよね、人数も変わるし。そういうのも踏み込んで実施されるということですか。それは学校と相談してやるのですか、それとも独自でやられるということなのですか。

**【申請団体④】**

まず、定期的に行う場合は、留守家庭児童会室がまずは主になるであろう。この場合、大事なのは、何か災害が起きたときに、子どもたち一人一人に、こういうふうに動くのだよということを徹底するのは難しいと思うのですね。失礼、失敗という言葉を使ったらいけないのですけれども、なぜうまくいかないか、起きたときには。先ほどパニックということも申し上げました、子どもたちはパニックになって当然なのですが、そこにいる大人、支援員や補助員が、パニックになるからそここのところの統制が取れない。じゃあ、それを統制が取れるようにするには、どうしたらいいかというので。毎月、今回は不審者、よくあるのは私が不審者に対して、さすまた2本で押さえる、1本だと押さえられないよねということを実践しながら、支援員やそこにいる大人である我々が、一人一人こういうときはこうするのだ、そのときに実際に動けるかどうかは別としても、動くという体験が大事だと、それをすることで子どもたちにも、留守家庭児童会室は来ている関係がある子どもたちに、支援員さんとかが指示をするので、オープンスクエアのほうにいるスタッフも、結局は私ども同じ雇用ですので、研修は一緒に行います。当然、統括責任者はその主任やスタッフですから、もしも何かあったときには、オープンスクエアだ、留守家庭児童会室だけでなく、当然もしかしたら放課後残っている、オープンスクエアに来てないけれども残っている子がいるかもしれない。でも、そのときに適正に子どもたちをリードして、避難場所にお連れするというところをする、我々大人が避難訓練などを介して異常事態だというスイッチが入るようにしていくのが大事だと考えております。ですから、状況によっては、小学校様と御相談で、じゃあ、この日に学校もやるから一緒にやると、もしも聞かれたら、そうしたらオープンスクエアに来ている子たちにも一緒に避難訓練をすることがあるのかと思いますので、そこは1つの行事として捉えるというのもありかと考えますが、ここは御相談と考えます。学校さんとは、相談でやります。

**【委員】**

相談してやるけれども、先生方が参加するという事は、ないですね。

**【申請団体④】**

はい。基本はないと思います。ただ、学校施設を使わせていただいている、我々は身ですので、こういった何月何日は何時に、こういった避難訓練をするのでということ、学校さんと共有すること、情報提供をまずきっちりとさせていただくという、ここが主になろうと思っています。ただ、1点だけ、例えば、三季休業とか、1日育成のときに、学校の先生は基本的に何名か学校の方にお出になっているタイミングもあろうかと思っています。

一方で、我々は朝からお預かりしている1日育成があります。例えば午前中のときに、例えば不審者で、もしくは火災でという何か設定したときに、例えば、学校の先生が御理解いただければ、そのタイミングで一緒にやりませんかという御提案はさせていただくかもしれません。それで強制的に一緒にやりましょうという話ではないです。

**【委員】**

分かりました。ありがとうございます。

**【委員】**

ありがとうございます。いくつか確認させていただきたいことと、教えていただきたいことがあります。非常に組織力のある御提案をいただいているのかなというふうに思いまして、その具体的な部分として、枚方市内に新たに事業所もつくるというようなそういうサポート体制も取るような御提案を具体的にいただいているのかなと思いまして。そういうようなところから、ちょっと教えていただきたい、確認したいことは、例えば、御提案書の中の53ページ、54ページあたりに関わるところなのですけれども、ここにうたっているそれぞれの北部であれば例えば牧野で、人数は出していただけてますね。確認なのですけれども、牧野に関してというと、9人が常駐するという考え方でよろしいのでしょうか。9人が常にいるという捉え方の人数の数え方でいいですか。

**【申請団体④】**

さようございます。

**【委員】**

そうすると、牧野で9人、その後は6、6、6で。こちらのあれを見ると、人の関係なのですけれども、例えば牧野のところを見ると、1班の児童会室で3名、オープンスクエアが3名とありますね。そのあと、2班のところでも3名、3班のところでも3名とありますけれども、9名おられるので、各班に3名は常におられる。いわゆるオープンスクエアのところに関しては兼務という、統括責任者がいるということですね。ほかのところも、6名というのは、2班体制で、それぞれ3名、3名という、そういうことでよろしいですね。

#### 【申請団体④】

ただ、先ほど申しあげましたように、支援が必要なお子様であるとか、そこは実情に合わせて、そこはきちっと加配して。

一般的な基準という形で、今分かっているオープンデータ上で、これをお示ししておるのですけれども、当然実情で変わるとおもっています。

#### 【委員】

そういうことですね、分かりました。そういう意味では、北部で33名ということと、東部では45名になりますかね。トータルで78名のスタッフを確保しないといけないということがあります。その辺の確保という意味では、お考えがあると思うのですけれども、そこら辺と。あとはもう1つ確認なのですが、そういう意味では、船橋のところですかね、オープンスクエアのところは、責任者が1はスタッフさんで、4になっているのですけれども。ほかのところは3、3、3で、きているのですけれども、ここを4にしているというのは、何か船橋は何かそういうちょっと増やしている意味があるということなのですかね。

#### 【申請団体④】

失礼いたしました。スタッフ人数2で、計3が正しいです。

#### 【委員】

先ほども、とってもいいお話もしていただいて、いろいろな取組といたしますか、例えば、縦割りや年齢の上の子が下の子との関わりの重要性とかというのは、多々あると思います。よく御存じだと思いますけれども、学習指導要領も変わるし、主体的な活動というようなこと、あるいは主体的な育ちということがあったときに、いわゆるやりたいことというのがいっぱいあって、それをちゃんとやってほしい。あるいは、いい取組にしてほしいといったときに、そういう意味では、スタッフという関わり合いも、もしかしたら異年齢の上の子が関わったほうがいいのかという場面もあるでしょうし、いろんな場面があると思うのですね。そういう意味で、主体的な活動、あるいはそれを支えるという意味での、今までの御経験からこういうスタッフの関わりがあるだとか、あるいは距離感の問題もあるかもしれない。何かその辺でお考えとか、御提案なり何なりがあれば、いわゆる活動とかいろいろな特別なプログラムというのはいろいろ組んでいただいていると思うのですけれども、日々の活動のところでは何かそういう主体的な活動とか、あるいは育ちというものを支えるスタッフ側の視点とか、その辺は何かお考えになっているとかあれば教えていただけたらと思いますが。

#### 【申請団体④】

では、最初の約100名近い人の採用ということで、56ページを御参照ください。私どもは人材確保の取組についてというページから始めておりますが、私ども56ページの中段から以降に人材確保策というものを、示させていただいております。言ってしまうと、弊社は常に人材確保というのがテーマとなっている企業体でもあります。結局、社会と共生する

樹でありたいという最初の会社の方針を申し上げましたが、全て人で成り立つ事業でございます。やはり人が財産でございますので、その方々を確保するために、どうしたらいいのかというので、そこには弊社は全社グループを挙げて取り組みをしております。ここに書いておりますように、具体的にこういうことをしておりますよというのはなかなかお示ししにくい、これは企業ノウハウの部分でもあるのですが、弊社は言ってしまうと、常に人を採用できる体制というのを取っています。特に、力を注がなくてはならないエリアについては、スピーディーに、すぐ今日判断すれば、明日には公募ができる、お問い合わせがあった場合にも、やはり速やかに対応する、しないによつての採用率というのは大きく変わります。実際、1日経って、2日経ってというところ、結局こういう業態、特に貴社、子どもたちに関わる、児童福祉に関わる方々というのは、いろんなチャンネルに求職活動なさるケースも多いです。ですから、子どもはまず応募があったら、速やかにアクションして面談、オンラインでもそうです、お会いするところから取り組んでいます。もちろん、いろいろなチャンネル、もちろん年齢層によっては、Web形態というのあれば、やはり広告媒体などがある場合と、いろいろありますので、そこについては全社挙げて、そういう広報媒体なども運用しておりますので。正直なところ、今このタイミングで受託させていただいて、2月からの引継ぎ保育、そして4月からの運営については今までの実績を合わせて、枚方市という地の利も考えとしっかりと確保できるというような考えはございます。

**【事務局】**

時間が迫っておりますので、回答を簡潔にお願いします。

**【申請団体④】**

主体性のところに関しては、33ページ、真ん中の3番、上から黒マル2つ目、こちらが特に御理解いただきやすい、いい例がありましたので、こちらを御参照いただければと思います。子どもたちは話合って決めていく、いわゆる子ども会議があったり、子どもたちが主体的に会議をしていく、それを支援員がしっかり見守り支えていくという、こういう構造の中でやっていきたいというふうに思っています。すいません、簡潔なお答えで申し訳ございません。

**【会長】**

委員、ありますか。

**【委員】**

いえ、私のほうは特に細かくいろいろなものが書かれてありますし、予算書のほうも適正な金額で書かれてあるなと思っておるのですけれども、1つだけ、全体的なアンケートを取られていると書かれてあるのですけれども、アンケートの状況などをお聞かせいただければと思います。これは保護者さんのみになるのですかね、それとも子どもさんも含めてアンケートを取られているのか、それごとにもし取られていたらお答えしていただければと思います。



モニタリングは毎年やっているほか、特に市直営から我々のほうに替わった職員に対しての1年目のアンケートというのも取っています。要するに、公から民に替わって、皆さんどうでしょうかという、そういうアンケートも取っています。

**【委員】**

それはどのように結果になっていますか。

**【申請団体④】**

1番は、やはりフレキシブルな対応ができるというところに対する、よかった点をおっしゃる率が非常に高いです。それと我々が御提案していたエリアリーダー制、巡回支援員がいて、日々困り事に相談に乗ってもらえる窓口がある。そこに対応してもらえる。そこに対する安心感、ここに対しては非常に高評価をいただいているという認識であります。

あと、利用者に関しては、我々のサービスの部分の利点をおっしゃる方が意外と多いので、それが枚方市内で今回御提案の中で、できるかどうかにはちょっとかかってくると思うので、例えば、配食サービスが良かったですとか、入退出の管理システムは非常に便利ですねとか、そういったこと。それと育成のときに、支援員の先生方と保護者との連携がしっかりと取れているというところをお褒めいただくとか、そういった声が多いのかなという印象です。

**【会長】**

よろしいでしょうか。以上で終わりでございます。

**【申請団体④】**

ありがとうございました。

**<申請団体退室>**

**【会長】**

それではこれをもちまして、全ての団体のプレゼンテーションが終了いたしました。次に、案件（2）その他について、事務局から何かございますか。

**【事務局】**

委員の皆様、長時間にわたり、審査いただきありがとうございました。本日までにお配りしています資料につきましては、そのままお席に置いていただいても結構ですし、言っていただければ、第4回の際に、続けてまたお席に御用意させていただきますのでよろしくお願いいたします。

**【会長】**

事務局で採点を集計していただけますか。

**【事務局】**

評価コメントについては、どういった評価だったかというのを自由記述で書いていただくものです。

**【会長】**

本日の審査会は、終了とさせていただきます。遅くまで御苦労さまでした。

**【事務局】**

どうもありがとうございました。